

# 生と死を考える結婚式

Relay Essay

山本雅基

Yamanoto Masaki

山谷・すみだリバーサイド支援機構 代表理事

結婚式の写真を大っぴらにするなど恥ずかしい限りですが、この写真の2日後から、私の夢であった、もと日雇い労働者の街、東京・山谷での「きぼうのいえ（在宅ホスピスケア対応型集合住宅）」の計画が急展開し、本格的にはじまりました。

私は前職のNPOをうつ病で退職。結婚式の翌月には、失業保険も切れる予定でした。医療には素人の私が、銀行から1億円の借金で「むぼう（無謀）のいえ」ならぬ、「きぼうのいえ」を建てることになるのもこの結婚式の半年後。このときにはただ夢を追う私と、無一文の私の夢に賭けてついてきてくれた妻の情熱だけがありました。



聖イグナチオ教会マリア聖堂前にて

在宅ホスピスの施設をつくりたいという私たちの願いに共感してくれた結婚式の招待客の皆さんは、「生と死について」のオーソリティー揃い。「東京・生と死を考える会」の会長のアルフォンス・デーケン神父が、結婚の司式を引き受けてくださいました。

神父様は披露宴会のパンフレットを全員に配り、元新聞記者の私の恩人は日本のホスピス運動について述べ、妻の会社の上司はお連れ合いとの死別のいきさつを語るという状態です。

披露宴の司会者は「彼の夢についていくなんで、何て無謀な結婚！やめておけばいいのに！」とジョークを飛ばして場内を笑わせてくれました。

まだ土地も建物もなにもないのに結婚に踏み切った私たち自身、いまとなっては自分たちの無謀さにゾットする思いです。「きぼうのいえ」が実現して3年。この結婚を祝ってくださった方々は、いまでも支援者として力を貸してくださっています。本当にうれしいことです。

このコラムは、忘れられない利用者・患者さんや、原点となった「あこのろ」について語っていただく、リレー方式のエッセイです。今回はNPO法人コミュニティケアリンク東京の長谷方人さんです。